



# 善正寺だより

〒:512-0902  
三重県四日市市  
小杉町1014  
浄土真宗  
本願寺派  
善正寺  
TEL:0593-31-1670  
TEL:0593-32-0733

掲示板法話

## 「仏さんがいらっしやる」「再び遇えるよ」

### そこに本当の喜びと安らぎがある



九月の声を聞くと、「あつという間に年の暮れ！」と連想が働く年齢になりました。同時に、一年の終わりが人生の終幕へと連想の輪が広がります。

ある時、「東京オリンピック（二〇二〇年）を見る事ができるだろうか？」と誰かが言いました。「まあ、それは大丈夫だろう！」の声。（ほんとうかな？という本音は胸の奥に隠しています！）

「リニア新幹線（二〇二七年開業）に乗れるだろうか？」「名古屋・東京（品川）間は乗れるだろう！」「大阪まで（二〇四五年）のリニアには乗れないね！」「いや、頑張つて乗れるよ！」「長生きしようじゃないか！」「この威勢の良い話に一同苦笑い（皆、百歳を越える！）。言った本人も苦笑いという顛末で座談は尻すぼみに・・・！皆、元気で長生きしたいけれど、いつか限界が来ることを予期しているのです。もちろん、誰一人例外はありません。近頃流行の「終活」は、家族、親族や地域の絆が希薄になる風潮の中で、少しでも不安を取り除き、安心したいという欲求の表れだと思われ

ます。遺言書を書き、延命治療の可否を考え、新しいエンディング（終末の形：散骨、樹木葬等）を準備してもなお、心からの安らぎ、喜びは程遠い。最近ビハーラ医療団に関わるお医者さんが増えてきました。ビハーラはキリスト教におけるホスピスと同じような「看取りにおける心の安らぎ」を目標にする活動です。そのおひとりである田畑正久という先生が「（生のみを考える）医療現場は『不幸の完成』という結果に終わり、患者さんの家族も医師、看護師も悩み、うつ病になる」と言われます。「仏教なんかなくても生きていける」と豪語する医療の歪みや弱点を痛感されたのです。そして、「仏教文化の支えがあつて初めて医療文化が開き、患者さんも家族も救われ、医療人も働いてよかつたと言えるのだ」と述べておられます。

医師として赴任した頃、「病気で亡くなつていく人たちにどんな言葉掛けをしたらいいのでしょうか？」と仏教の師匠に尋ねたら一つは「お任せする」ということ、もう一つは「仏さんがいらっしやること」をしつかり言いなさい、と教えられたそうです。

### ☆行事ご案内☆

## ◇門信徒会9月の例会

### 9月21日（日）夜7時半

1年9か月後に迫った『親鸞聖人750回忌法要』に向けての話し合いと練習、他・・・

◇キッズサンガ 9月6日（土）午後4時お経ゲーム、鐘つきは毎夕5時年中無休、ご褒美のガムあり、お友達を誘って来てね！

◇三重組コーラス9/29西勝寺、8/29別院音楽祭バス

善正寺ホームページ「三重 善正寺」で検索。1年分の寺報が閲覧。毎日更新の「住職と坊守のつれづれ日記」が大好評。寺の日常を公開、開設6年1か月で14万9千訪問、コメント、悩み相談、大歓迎！

◇『一縁会テレホン法話』059・354・1454へ電話

※新納骨堂が完成！経堂をリニューアルして、ご要望の多い新納骨堂として活用、後継者のいない方、お墓、仏壇でお困りの方、ご遠慮なくご相談下さい。

※親鸞聖人750回大遠忌法要、平成28年5月15日に決定！ご法要まで、後1年9か月に迫りました。皆様の力の結集を

※9月21日（日）午前・午後、小杉町仏教会主催『追悼法要』（光念寺様で）戦没者、年間物故者遺族、町役員さん。

※（お礼）先日来、行事さん、総代さん、住職が手分けして、善正寺門信徒会年会費を集めさせて頂きました。皆様のご協力に心より感謝します。

※お盆参り、法事、報恩講参りなどの予約はお早めに。自宅での参りが困難な方は、どうぞ本堂をお使い下さい。



新しくなった共同トイレ

中央に仕切り壁、男女別々のドア  
女性用は洋式二つ。男性用は三つ



キッズサンガでミュージックベル演奏『故郷』合奏！孫は指揮、私マンドリン



次男宅で盆参り。両家の親と家族が揃

医療や介護の施設だけでなく、「お任せする」心が定まり、「仏さんがいらっしやるよ」と声がかかけられ、共に再び遇える世界（浄土）に至る道を歩む。そこに本当の喜び、安らぎがある。

「悲しみは 悲しみを知る悲しみに救われ、涙は 涙に注がれる涙にたすけらる」（金子大栄師）



### 坊守スケッチ

## 食事で育てる『共感』と『連帯感』



七月下旬長崎県佐世保市で、悲惨な女子高生殺傷事件が起こりました。被害者も加害者も同じ女子高生。優秀で恵まれた家庭に育った加害者が、何故こんな殺人事件を犯してしまったのか？マスコミではいろいろ分析していますが、私なりに考えてみました。先ず考えられることは、実母の死後、高一の彼女を何故一人暮らしにさせたのでしょうか？そして父親の再婚。彼女の心の闇が推し量られます。周囲が誰一人、彼女の心の叫びを聞こうとしなかったことは、残念でなりません。殺された女子高生と遺族には、お気の毒で悔やんでも悔やみきれません。二度とこのような事件が起きないように、私達一人一人が、現代社会の闇とその原因を真摯に追究しましょう。

サル学者で知られる京大教授の山際寿一氏が、毎日新聞(8/3付)『時代の風』で次のように語っています。「人間以外の動物にとって、生きることは食べる事。しかしそれを実現するには、いつ、どこで、何を、誰と、どうやって食べるかという最大の課題がある。一方、現代の人間は、コンビニや電子レンジ等の科学技術と流通革命の発達で、いつでも、どこでも、どんなものでも、好きなように食べる事を可能にした。しかしいくら技術が

発達しても解決できない問題がある。それは誰と食べるかという問題。野生のサルは群れで暮らすのが弱肉強食の世界。強いサルが独占し、仲良く食事をする光景は決して見られない。人間だけが食事の時間に、相手とじっくり向き合い、気持ちを通じ合わせ、信頼関係を築きあう。同じものを分かちあって食べる事で、共に生き、共に歩もうという気持ちが湧く。ところが近年の技術革新は、人間的な食事時間を短縮させ、『個食』を増加させた。自分の好きなものを、好きな時間と場所で、好きなだけ食べるには、むしろ相手がいらない方がいい。個食は共感力や連帯力を低下させ、仲間の為より個人の利益を優先。勝ち組や自分に都合のいい仲間とだけ付き合う。つまり人間がサル化して、サルの社会に似た個人主義の閉鎖的社會を作ろうとしている」と提言された。私も全く同感である。

昔から人間の食事は、栄養補給以外にも、他者との関係を築く大事な役割を担った。食べるものが何もない貧しかった時代でも、家族で分かち合っていた。食事を囲む温かい風景が懐かしい。あの時代には逆戻りできないが、せめて子供には寂しい思いをさせる食事をさせたくない。長崎佐世保の事件でも、家族が寄り添って食事を囲んでいた

ら、こんな事件は未然に防げたのではないだろうか？大人の都合主義のモノサシで、成長期の子供の心を深く傷つけたことは残念でならない。家族で共に食卓を囲むことで、敏感な子供の心を優しく丁寧に育てたいものだ。

#### ☆寄稿

四日市市 釈 妙 水

☆乳飲めば 玉の汗かく 赤子かな

☆量敵 はつきり頼に 昼寝かな

☆稲田割れ 茎強くなり 穂実る

☆辻辻に 祭り太鼓が 練り歩く

姫路市 釈 貞 芳

☆公民館に 続く長堀 二十五鉢の季節の花は 毎日元氣

#### Eさんのいいもの紹介

☆「ああ疲れたわ。今の世の中嫌なこと多いわ」・・・「そんな事、言った事あるか？」と蟻に聞いてみる(平成1

1・7日本農業新聞より、作者不明)

※小さな蟻でさえ、厳しい暑さの中、ただ黙々と働いて自分の使命を全うする。私達人間は、どうして愚痴が出るのか？蟻に恥ずかしい！(坊守)

#### ☆ホットニュース

☆境内地の共同トイレをリニューアル。中央に仕切り壁をつけ、男女の入り口は別々。女子用は新しく二つの洋式トイレに変更。膝の悪い人の為です。

☆かつて連研終了された方で、二泊三日の西本願寺『中央教修』を終了された方はいませんか？ぜひ中央教修を受講して下さい。晴れて門徒推進員さんから「新しい人生の開眼！」と絶賛の声。

☆新納骨堂の個別納骨壇を24基設置。後継者のいない方、お墓、お仏壇、納骨等で困っている方は、何でも自由にご相談下さい。見学もOKです。

#### 何でも相談コーナー

皆様からお寄せ頂いた質問などにお応えするコーナーです。匿名性を持たせます。同じような悩みをお持ちの方は、ぜひ参考にして下さい。仏事の事、悩み事など何でもご相談下さい。

(問) 最近わが身の上に、悪いことが立て続けに起こります。何か祟っているのでしょうか？

(答) ご先祖が祟るとか、罰が当たるとか、方角が悪い所為ではありません。人生には巡り合わせの時期があります。心静かに自分の生き方を振り返りましょう。その意味で仏前に座り合掌するのはいい機会です。一瞬の気休めで問題は解決しません。生き方を見直すチャンスです。先ずは気持ちから立て直しましょう。

☆カンパ有難う☆  
赤井淑子様、小林ふきえ様、矢田たず様、上田ひろ子様他匿名様より頂戴。

☆編集子より ☆  
「善正寺だより」第二四九号をお届けします。◇最近の散骨、樹木葬ブームについて、「手を合わす場がなくては何にもならん」とある人が一言。無縁墓が増え、従来の葬儀、埋葬の形が問われる昨今、傾聴すべき視点です。◇「子供に迷惑かけたくない」という言い草は傲慢の極みでは？「迷惑」を気にせず、「お任せ」の心を開きたい。

秋来ぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞおどろ  
かれぬる(藤原敏行古今和歌集) お金が過ぎたら早  
くも秋の収穫が気になるこの頃です。世間では人手  
不足が叫ばれる一方で若年無業者(ニートや引きこ  
もり)が二百万人を超えたそうです。何故こんなアンバラ  
エスが起ころるのでしょうか? それは皆が大学を卒業し  
たら一流企業に就職したい夢を持ち、そこから外れ  
たら挫折と考え心が折れてしまうからです。先日ラッ  
で「中干し」という言葉を聞きました。私は農業の経験  
がないので初耳でした。「中干し」とは夏の暑い盛り  
に田んぼの水を抜いて、とびか入るまで乾かすこと  
です。何故こんなことをするかといえば、「根」を強  
くする為です。絶えず水があると根は自分から水  
を求めません。しかし一旦水を抜くと根は水の在り  
かを探がして縦横にぐんぐん伸びます。稲穂をつ  
けた実りの頃には、頭の重みに耐えるだけのし  
っかりした根が張っています。それ以外にも根腐れ  
を防ぎ肥料の吸収をよくする効果もあります。生物  
の生育には水は不可欠と思っていた私には驚きでし  
た。現在就活中で苦勞している人も、今は自分の中  
干し期間と受け止めましょう。順調で恵まれ過ぎた  
人生はあなたを脆弱にします。苦勞してこそ喜びも  
大きい筈。いつてもあなたを見守り心配している  
親のおおりに気付いた時、道は開けてくることであ  
るでしょう。あなたは決して人ではない。合掌

平成二十六年九月

善正寺坊守拝